

インマヌエル中目黒キリスト教会  
聖日礼拝2007.6.10.

メッセージ

ローマ書連講33

『神の逆転劇』

竿代照夫牧師

# 聖書朗読

## 新約聖書

ローマ人への手紙11章1-12節

1 すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。

2 神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言いました。

3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこわし、私だけが残されました。彼らはいま私のいのちを取ろうとしています。」

4 ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかかめていない男子七千人が、わたしのために残してある。」

5 それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。

6 もし恵みによるのであれば、もはや行ないによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。

7 では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくなにされたのです。

8 こう書かれているとおりです。「神は、彼らに鈍い心と見えない目と聞こえない耳を与えられた。今日に至るまで。」

9 ダビデもこう言います。「彼らの食卓は、彼らにとってわなとなり、網となり、つまずきとなり、報いとなれ。

10 その目はくらんで見えなくなり、その背はいつまでもかがんでおれ。」

11 では、尋ねましょう。彼らがつまらずいたのは倒れるためなののでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。

12 もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。

メッセージ

ローマ書連講33

# 『神の逆転劇』

ローマ人への手紙11章1-12節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。」

(ローマ11：12)



# A. すべてのイスラエルが 退けられたのではない(1-5節)

## 1. 悲痛な疑問:

神はイスラエルを徹底的に退けなされたのか  
(1節a)

- ・十字架の事実(マタイ27:25)
- ・エルサレム教会への迫害(使徒8:1)
- ・ユダヤ人ディアスポラによる迫害  
(使徒13:14-16、44—50、14:2、17:5、13、  
18:5-6、12-13)

<日本の状況は？>

## 2. 励ましの答え:

神の選びによって残ったものがある

- ・パウロ自身がその例
- ・エリヤ時代の7千人(第一列王19:4、18)

<「1%しかクリスチャンがいない」のか、  
「1%もいる」のか>

## B. 選びと滅びの分かれ目（6-10節）

1. 選びは神の恵みによる：徹頭徹尾恵み

2. 滅びへの道は人間の頑なさによる

- ・ 申命記29：4

= 出エジプト時に示されたイスラエルの頑なさ

- ・ 詩篇 69:22、23

= 反キリストの勢力の存在

## C. イスラエルの失敗の目的(11-12節)

1. イスラエルの躓きは、異邦人の救いを  
つまづ  
もたら  
齎した
2. (それならば) イスラエルの回復は、  
もたら はず  
より大きな栄光を齎す筈

おわりに:

日本の救いのために希望を持って  
祈り続けよう。